

＜ もくじ ＞	
1. 巻頭言：2022年シニア社会学会の新たな出発に向けて	1
2. 新年度プロジェクト・チーム発足について	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお願い	5

## 1. 巻頭言：2022年シニア社会学会の新たな出発に向けて

創立20周年を機に発足した「長期計画検討委員会」での1年に及ぶ審議と3月13日の報告会を終え、当学会は本年4月より新たな展望の下に今後の活動へのスタートを切ることになります。会員アンケートのデータ分析と解釈の過程は、当学会でも最近入会した比較的若手のメンバーの手に委ねられ、審議も効率的に進められたように思います。それらの方々の精力的な参加とてきばきとした仕事ぶりは、信頼感と期待感を抱かせるに十分でした。そのメンバーは企業の現職または新たなキャリアに挑戦されている方々やデジタル技術に強い方々であり、それらの方々に当学会の新たな時代の推進力の一翼を担っていただけるのは頼もしい限りです。



そのことは、当学会の現状を考えるとときにきわめて重要な意味を持っています。第1に、当学会の特徴の一つは、「研究者」と「企業出身または在籍者」がそれぞれの持ち味を生かして研究と実践の融合を図ることでしたが、最近では、創立時からの会員の高齢化が進み企業出身者の割合が減少しただけでなく、実践を伴わない「アカデミズム」の傾向を指摘する声も聞かれるようになりました。第2に、近年の日本の企業の能力主義重視の傾向や働き方改革を背景に、リストラ、非正規化による収入減、病気、介護、その他さまざまな要因による定年前の転職や離職など、人生の転換を迎える時期が早まるとともに「キャリア変更」を迫る要因やパターンが多様化してきています。そのため会員の問題意識も、定年後の「第2の人生」の過ごし方のみならず、さまざまな理由による定年前からの「キャリア選択」に移りつつあります。第3に、ICT技術やデータ処理技術の発達により若い世代の知識や技術や経験に依存せざるを得ない傾向が強まっていることです。

以上のことは、アンケート結果の一つ「男性に比べて比較的若い女性会員が多い」とこととともに、当学会の現状と今後の課題を考える上で重要なポイントです。創立当時から当学会は、「老若男女共同参画社会」の実現を目指してきました。「老若男女」と「共同参画」は、どちらもSDGsという国連の目標と重ね合わせれば、そこに象徴される価値観にこそ注目すべきでしょう。つまり、「老若男女」とは必ずしも年齢と性だけではなく、共に暮らす多様な人々間の格差・偏見・差別のない関係を象徴する用語と解釈できるでしょう。また「共同参画」とは、年齢や性にとらわれずに相互の知識や経験から学び合い、多様な人々の抱える問題をマクロ社会の動きを背景として共通の問題として受け止め、問題解決の方法を共に考え実践する関係をつくる過程です。個人の「健康長寿」や「長寿に基づく経験や知識」を重視するだけでなく、このような「共同参画」の考え方を指針として、問題を抱える人から学びつつ支援する「関係」をつくることが重要だと思います。またそれを通じて「研究と実践の循環」が生まれれば、それが当学会の魅力となるでしょう。その努力を通じて目指す社会こそ、生命・生活・人生の豊かさを全うできる「シニア社会」なのではないでしょうか。今年度が、その再確認による新しいスタートとなることを祈ります。

事務局長 長田攻一

## 2. 新年度プロジェクト・チーム発足について

「長期計画検討委員会」での審議を経て、運営委員会で新年度に向けて3つのプロジェクト・チームを発足させました。第226回運営委員会において、それぞれのプロジェクトの課題を、責任をもって進めていただけるチームの素案が決まりましたのでお知らせいたします。1年単位で計画・試行・評価・実行を繰り返して進む予定です。それぞれのチームから会員の皆様にご協力をお願いをすることがあると思いますが、そのときにはよろしく願いいたします。

### 1) 既存活動の継続と活性化チーム

学会大会、シニア社会塾（連続講座）、研究会合同イベント、新研究会立ち上げなどの従来の活動の魅力を高める活性化とともに、内部および外部からの参加者の増大を目指します

### 2) 対外アピール・発信・交流チーム

新イベントの開発、他団体との交流と連携、キャッチコピー、パンフレット作成などを通じて、他チームとも協力しながら対外向けの魅力を高める活動を進めます。

### 3) デジタル化推進チーム

内部資料のデジタル化やクラウド利用による事務作業の効率化、ホームページの改良、SNSによる発信の場の拡充と、研究成果の発信に向けてのシステムの導入などにより、発信力の向上を図ります。

## 3. 研究会からのお知らせ

### (1) 第21回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2022年4月23日（土） 17:00～20:00

2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201

3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会

4) テーマ：認知症と任意後見制度

劇団「<sup>びしょうざ</sup>B笑座」第7回。

「私にとって 認知症とは」です。

認知症を体験することで、認知症に学び、ビジュアルリゼーションすることで新たな発見が生まれます。尚、希望者は「回想」を行うために冊子『心づもり』を提供しています。

劇団員募集しています。コロナ禍ということで昼間に行います。Zoomの参加もできます

※お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme\_masumi@yahoo.co.jp) までお願いいたします。

### (2) 第31回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年4月26日（火） 17:30～19:30

2) テーマ：

① テーマ1：あなたにとって実践できる身近なSDGsとは。日常生活での具体的行動指針をそれぞれ紹介してください。

② テーマ2 読書会：山田昌弘氏 2021/12/11 の日本経済新聞記事で紹介された「男らしさの呪縛を解こう。生きづらい男性のための4冊」の中から選書2冊目。「マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か」#Mee Tooに参加できない男たち（集英社新書 2021）「まっとうさとは、複合差別状況の中でも他者と自分に対する繊細な想像力を持ち続けるということ、葛藤し続けられること」と著者は述べる。さて、あなたにとって、「まっとうさとは？」

※参加希望の方は、中村までご連絡ください。(nakamurayoshiko6@gmail.com)

### (3) 第31回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年5月25日（水） 15:00～17:00

2) 場 所：上野区民館 201 会議室（東京都台東区池之端1丁目1-12）

3) 概 要：俱進会助成事業 調査項目検討

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

#### (4) 第141回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年5月25日(水) 18:00~20:00

2) 報告者：水谷 忠由(厚生労働省保険局医療介護連携政策課長)

3) テーマ：「デジタル化で変わる我が国の医療」

4) zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

[阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp)

[小島みさお kojima.misao01@gmail.com](mailto:kojima.misao01@gmail.com)

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで

#### (5) 第78回「シニア社会のリテラシー」研究会のお知らせ

4月28日(木) 開催予定の例会は、新型コロナウイルス感染予防のため、延期致します。

次回は、5月26日(木)を予定しています。

※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願い致します。

## 4. 研究会からの概要報告

### (1) 第30回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2022年3月22日(火) 17:30~19:30

2) 場 所：Zoom 開催 参加者7名

今回は、新たな参加者2名(60代女性)を迎えた。

テーマ1：長期化するコロナ禍の中で、自分の価値観が変化してきたと思う点についてディスカッション 不要不急の外出を自粛し、自宅にこもる生活の中、感染を避けるために細心の注意を払っている。食事や飲み会、友人・近所づきあい、勉強会やボランティア活動などの社会参加の機会も極端に減ってしまった。その中で、自分自身の今を考える時間が出来、現在とこれからの自分にとって本当に大切な人、大切なコトがわかってきた。ICTを扱う能力は、今後も益々必要だと皆、感じている。現役世代はテレワークが増え、働き方、生き方、価値観が、これまでと全く異なる時代になってきたので、その時代の変化に対応していく知恵が益々求められてくる。

テーマ2：『捨てられる男たち』(近畿大教授・奥田祥子著) 読書会

先ずは、若井さんが、力作レジュメ(10頁)に沿って各章を要約し分析された後に、参加者それぞれが、自分の経験談を交えながら私見を述べた。

「無自覚ハラズメント」は、長年の「男社会」の価値観に起因している。現代は、「多様化」、「分権化」が求められており、男性優位の排他的な組織運営はもはや立ちゆかなくなっている。現役世代の上司は大半がバブル世代と団塊ジュニア世代で、いまだに男性優位のイデオロギーを保持している。働く女性側も多様であり、仕事で出世したいタイプもあればそうでないタイプがある。共稼ぎの夫婦は、30代40代に圧倒的に多いが、男性が妻と共に育児や家事を担うことへの理解は、一般企業と公務員では職場の上司の理解度、認識が異なる。また、20代30代の男性は、育児や家事にコミットすることに違和感なく、妻と協力し合うジェンダーフリーな新たな体験として楽しんでいる傾向有り。

最後に新たに参加のお二人のコメントをご紹介します。

T子さん(60代後半) 内容が濃くて自分の中で充実した良い時間でした。意見交換しながら実体験が色々と思い出され、気持ちがすっきりしとても楽しかった。

A子さん(60代前半) 内容が広がるというより深く落とし込めた感じで、とても有意義でした。また参加させていただきます。(中村昌子 記)

### (2) 第29回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2022年3月23日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：

① 次年度研究会 調査について

「高齢者のデジタル・インクルージョン達成のための方策に関する探索的研究」というテーマで俱進会に研究助成の応募をしている。採択の結果は3月下旬に判明するが、通った前提で研究の準備をする。

■参考文献の提示

James Richardson,2018,I am connected:new approaches to supporting people in later life online, Centre for Ageing Better and Good Things Foundation: London.  
岩崎 久美子,2020,高齢者のデジタル活用支援の事業構想：英国事例を参考に（総力特集 社会の問いにどう応えるか 社会教育の事業構想）, 社会教育 75(5), 38-45, 2020-05.

■4月の研究会に向けての準備

- ・英文文献の邦訳に目を通す
- ・岩崎論文に目を通す（後日八巻さんからpdfをいただく）
- ・各自インタビュー項目案を簡単にまとめておく  
質問項目案、インタビュー対象者へのアプローチ
- ・ほかに参考文献あれば収集
- ・俱進会が通らなくてもプレ調査レベルの調査は行う。
- ・学会内で倫理審査会を立ち上げていただく

② 話題提供 Web3.0について（八巻さん）

Web2.0データの独占が問題となっているが、Web3.0では、データの所有権をNFTにより明確化し、データの分散管理をする。 (森 記)

(3) 第138回「社会保障」研究会報告要旨

1) 日 時：2022年2月16日（水） 18:00~20:20

2) 報告者：齊藤 紀子（千葉商科大学人間社会学部 准教授）

清水 さえ子（元・一般社団法人セーフティネット代表）

3) テーマ：「市民による有償ボランティア型生活支援サービス・アクション・リサーチから得られた示唆」

4) 参加者：18名

高齢者が地域で安心して暮らせるよう市民が買い物・ゴミ捨て・電球交換・庭木の手入れなどを行う生活支援サービスは、無償ボランティアだけでなく有償ボランティアとしても展開されている。有償ボランティアは謝礼金という金銭を受け取るスタイルであり、日本では1980年代より台頭してきた。2000年の介護保険制度開始後は沈静化した。労働との違いにおける曖昧さなどの課題を残しつつ、2015年の総合事業開始以降は再生段階を迎えている。

市民が有償ボランティアとして活動するうえで、利用者のみならず支援者・協働主体までの全てのステイクホルダーにとって望ましい支援とそのマネジメント方法を明らかにするべく、アクション・リサーチを行った。その結果、望ましい支援とは「利用者とのコミュニケーションに基づき、利用者の意欲を引き出す支援」であるとの結論が得られた。そのためマネジメントとして「ステイクホルダーが協働し利用者に全人的にかかわること、情報や知見を共有し助言し合える体制をつくること、助言をもとにボランティアメンバーが主体的に考えセルフマネジメントできること」が求められるとの示唆が得られた。

上記報告後の質疑では、活動の継続性（資金面）について、謝礼金の金額は最低賃金を下回るケースが多く、その一部を団体運営費として寄付して頂いたり自治体等からの補助金を得たりしても、団体としては収支バランスをとるのがやっとなのであるとの回答がなされた。行政による支援の必要性を指摘する研究もあるが、資金的な支援により団体としての独立性やアドボカシー機能を損なう可能性があり、有償ボランティア団体の財務的

継続性は今後も大きな課題であることが明らかにされた。また活動経験の少ない市民の参画を促す工夫について、勉強会・研修会の実施に加え、適材適所をめざし各々がもつスキルを活かせる場をたくさん創ることが求められるとの回答がなされた。(齊藤紀子 記)

#### (4) 第139回 「社会保障」研究会報告要旨

1) 日 時：2022年3月23日(水) 18:00~20:30

2) 報告者：小野晶子(労働政策研究・研修機構副統括研究員)

3) テーマ：「改正高年法の社会貢献事業と企業ボランティアの方向性」

参加者 16名

昨年4月から施行された改正高齢者雇用安定法(以下、改正高年法)では、70歳までの就業確保が事業主の努力義務とされる。これまでと違って、雇用の確保以外に、高齢者が事業主と業務委託契約してフリーランスで働く制度や社会貢献事業に従事する制度である「創業支援等措置」が加えられた。

本報告では、社会貢献事業に焦点を当て、その特徴と問題点が指摘された。企業は自ら実施するかNPOなどのボランティア団体に出資し、70歳まで高齢者を受け入れるという契約を結び、団体は高齢者に金銭を支払う。こうした「企業ボランティア」は、一般に言われるボランティアの原則に反するものである。①必ずしも自発性に基づかない。②無償性の原則に反し、有償である。

企業側のメリットとしては、株主対策、社会的責任、生産性の向上、ビジネスイメージ、組織戦略のサポート、企業への忠誠心などがあげられる。他方、従業員のメリットとしては、スキルやチームワークの向上、組織へのコミットメントの強化、仕事満足度の向上、代替モチベーションの向上(仕事には不満だがボランティア活動には満足)などがあげられる。

課題と方向性：①就労とボランティアの区別が曖昧 ②ボランティア活動の人事評価への反映の恐れ ③義務として行った活動は、次に繋がらないので、自発性を重視した活動が必要。④参加者の意思確認が必要。⑤定年退職後だけでなく、それ以前にもボランティア活動に慣れておくことが望ましい。

参加者からの質問に対して、①改正高年法の枠組みの中で労働者協同組合活動への支援は可能である。②金銭を支払うのは企業側か受け入れ団体かははっきりしていない。③改正高年法に社会貢献事業が取り入れられた背景には官邸からの圧力があり、労働政策審議会において十分な討議を経ることなく決定された、ことなどが明らかにされた。これまで日本社会では、企業とボランティア団体との壁が非常に厚かったが、改正高年法の施行を契機に両者間の交流が増すことが期待される。(袖井孝子 記)

## 5. 事務局からのお願い

### <会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報(氏名・住所・eメールアドレス等)に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

### <5月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News第273号の発行日は、5月18日(水)です。原稿をお寄せ下さる方は、5月11日(水)までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

### <JAAS News 編集レイアウトをお手伝いして下さる方募集>

毎月お送りしているJAAS Newsは、原稿が集まった後、Microsoft Wordを用いて編集・レイアウトを行い、PDF仕様で皆様にお届けしております。ドラフト作成までは、事務局内で持ち回りで行っていますが、編集・レイアウトを担う人材が限られており、業務集中をきたしております。

会員の皆様のなかで、Microsoft Wordを用いた編集・レイアウトの経験がおありの方に、無償です

がお手伝いをお願いできたらと思っております。手伝いをしてもいいと思われる方がいらっしゃいましたら、その旨、シニア社会学会事務局あてに、eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp にてご連絡ください。よろしくお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月 1 回水オープン）  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202  
電話&FAX：(03) 5778-4728  
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/